

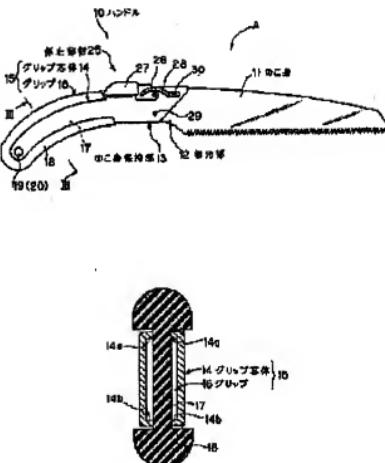
HANDLE FOR EDGE-REPLACEABLE SAW

Patent number: JP5185381
Publication date: 1993-07-27
Inventor: MIYAWAKI SHOZO
Applicant: YUUM KOGYO KK
Classification:
 - **international:** B23D51/01; B23D51/10; B23D51/00; (IPC1-7):
 B25G3/12; B27B21/04
 - **European:** B23D51/01; B23D51/10
Application number: JP19920002824 19920110
Priority number(s): JP19920002824 19920110

[Report a data error here](#)

Abstract of JP5185381

PURPOSE: To manufacture products of high precision comparatively simply by forming in a single piece a saw body holding part with a pair of grip cores, and thereby enabling processing the saw body holding part and grip cores simultaneously in one and the same process. **CONSTITUTION:** A saw handle is equipped with a saw body holding part 13 to hold the root 12 of a saw body 11 removably, a pair of grip cores 14, and a grip 16 made of an elastic substance inserted between the grip cores 14, wherein the grip cores 14 are formed in a single piece with the saw body holding part 13, extended backward from the saw body holding part 13, and opposed a certain spacing apart in the direction of the saw body holding part 13 pinching the root. According to this construction where the part 13 and the grip cores 14 are formed consolidated, they can be processed simultaneously at the same stage of the processes. Further because the grip 16 is inserted between the grip cores 14 constituting a couple, the strength of the gripping part can be enhanced even though the grip 16 is formed from elastic substance.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-185381

(43)公開日 平成5年(1993)7月27日

(51) Int.Cl.¹ 购买标记 房内整理器号 F1 技术表示箇所
B 25 G 3/12 A 7041-3C
B 27 B 21/04 B 9238-3C

審査請求・未請求・請求項の数3(全8頁)

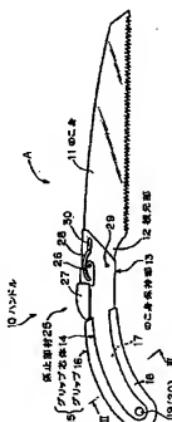
(21)出願番号	特願平4-2824	(71)出願人	590006387 株式会社ユーエム工業 兵庫県小野市東住町1015の1
(22)出願日	平成4年(1992)1月10日	(72)発明者	宮原 昌三 兵庫県小野市東住町1015の1 株式会社ユーエム工業内

(54) 【発明の名称】 簡易式握用ハンドル

(57) **【要約】**

【構成】のこ身保持部13とグリップ芯体14を一体的に形成する。のこ身保持部13は、のこ身11を保持するためのものである。またグリップ芯体14は、偏Aの把手部分15を構成するものであり、のこ身保持部13から後方へ延びされた一对の部材である。上記一对のグリップ芯体14間にには、弾性体のグリップ16が挿入される。

【効果】 一つの工場での身保持部13とグリップ芯体14を一度に加工することができる。従って比較的簡単に精度の高い製品を製造することができる。またこれにより歩り足りりが削除し、コストを低くすことができる。さらに、弹性体のグリップ16を一对のグリップ芯体14間に嵌入する構成を採用しているので、グリップ16の固定强度を高めることができるという利点がある。



【特許請求の範囲】

【請求項1】この身の根元部を着脱自在に保持するこの身保持部と、

この身保持部と一体的に形成され、この身保持部から後方へ延びさせて、上記のこの身保持部が上記根元部を保持する方向に間隔を隔てて対向している一対のグリップ芯体と、

上記一対のグリップ芯体間に挿入された弾性体のグリップとを有することを特徴とする替刃式船用ハンドル。

【請求項2】上記弾性体のグリップは、グリップ芯体の少なくとも上部及び下部から外方へ膨らんでいる脛らみ部を有する請求項1記載の替刃式船用ハンドル。

【請求項3】上記のこの身保持部は、この身の根元部を保持したときに、この身根元部を保持する止部材を有する請求項1記載の替刃式船用ハンドル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は替刃式船用ハンドルに関するものである。

【0002】

【従来の技術】切味の劣化したこの身を新しい船身に改善して、常に切味のよい状態を保つことのできる替刃式船は各種提案されている。そのような従来の替刃式船に採用されている替刃式船用ハンドルは、一例として、本件出願人の先願に係る特開昭61-1-143803号公報や実開昭61-143801号公報が示されている。

【0003】その構造では、作業者が握る手を保持するためのグリップと、このグリップの長手方向一端部に設けられたこの身保持部とを備えており、この身保持部には、この身の根元部を止部材として止部材を設けている。ところで上記替刃式船を使っての握り引き作業においては、グリップを保持してこの身の歯を加工品に当て、この身に所定の荷重を加えた状態でこれを握り引きする必要がある。そのためグリップの材質としては、作業性を確保するために、軽量な木、プラスチック等を採用することが好ましい。他方、この身保持部の材質としては、充分な耐荷重を確保するために、ブレス鋼板等の金属材を採用することが好ましい。そこで上記従来のこの身保持部構造においては、グリップとのこの身保持部とを別部材で構成していた。また握り引き作業においてグリップを手に剥離させ、しかも滑りが発生するのを防止するために、グリップには、ゴム等の滑り防止用弾性体が貼付されていた。

【0004】

【実用新案】本発明が解決しようとする課題】このように上記従来の替刃式船におけるこの身保持部構造は、何れもグリップの長手方向一端部に、それとは別部材とのこの身保持部を設けているので、グリップとのこの身保持部とをそれぞれ別工程で加工する必要があるばかりでなく、所定の組立精度を確保する必要があったので、製造コストが高くなる。

という不具合があった。特にグリップとのこの身保持部に固着する固定構造の精度や強度が悪い場合には、この身がグリップに対してがたつたり、離引き作業が行ないにくいという不具合が発生するため、歩留りが悪いという問題があった。

【0005】また、グリップに滑り防止用弾性体を貼付している構成では、長期間使用を継続すると、弾性体がグリップから剥離やすくなるという問題があった。また首筋の弾性体でグリップを握ることも考えられるが、その場合には、離引き作業の際に、弾性体がグリップから離脱しやすくなるという問題も考えられる。そこで本願出願人は、加工が容易であり、しかも手に刷染みやすい改良された替刃式船用ハンドルを発明した。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明の替刃式船用ハンドルは、この身の根元部を着脱自在に保持するこの身保持部と、この身保持部と一体的に形成され、この身保持部から後方へ延びさせて、上記のこの身保持部が上記根元部を保持する方向に間隔を隔てて対向している一対のグリップ芯体と、上記一対のグリップ芯体間に挿入された弾性体のグリップとを有することを特徴としている。

【0007】上記弾性体のグリップは、グリップ芯体の少なくとも上部及び下部から外方へ膨らんでいる脛らみ部を有している。また上記のこの身保持部は、この身の根元部を保持したときに、この身根元部を保持する止部材を有する止部材を有している。

【0008】

【作用】上記構成によれば、この身保持部と一対のグリップ芯体とを一体的に形成しているので、一つの工程でこの身保持部とグリップ芯体とを一度に加工することができる。またグリップを上記一対のグリップ芯体間に挿入しているので、グリップを弾性体で構成しているにも拘らず、把手部分の精度を向上させることができる。

【0009】さらに弾性体のグリップが、グリップ芯体の少なくとも上部及び下部から外方へ膨らんでいる脛らみ部を有している場合には、作業者がグリップを握った際に最も荷重のかかる部分を弾性体で構成することができる。さらに上記のこの身保持部が、この身の根元部を保持したときに、この身根元部を保持する止部材を有している場合には、この身保持部の保持強度を一層向上させることができる。

【0010】

【実施例】以下、添付図面を参照しつつ、本発明の好ましい実施例について上述する。図1は本発明の一実施例におけるハンドル10を採用した替刃式船Aの正面図であり、図2は、上記ハンドル10の要部を示す分断斜視図であり、図3は図1のIII-III矢視断面図であり、図4は上記ハンドル10のグリップ16の変形例を示す正面図であり、図5は上記ハンドル10のこの身保持部

BEST AVAILABLE COPY

の要部を示す一部構造面図である。

【0011】これらの図を参照して、本実施例におけるハンドル10は、のこ身11の視元部12(図2、特に図5を参照)を着脱自在に保持するのこ身保持部13と、のこ身保持部13から後方へ延びて設けられている一对のグリップ芯体14とを有している。これらののこ身保持部13及びグリップ芯体14は、軟鉄等の板金部材をプレス加工により抜抜き、さらに折り曲げ加工を施すことにより形成された一体成形品である。そして、各グリップ芯体14は、略ビストル形の把手部15を構成するものであり、先端側が下向きになるように湾曲する円弧形状に形成されている。また図2の矢印X1で示すように、各グリップ芯体14は、のこ身保持部13が上記視元部12を扶持する方向に開窓を設けて対応している。さらに図3に示すように、各グリップ芯体14は、その全長にわたって一体成形されたフレジ部14a、14bを有している。なお本実施例においては、のこ身保持部13及びグリップ芯体14を板金部材のプレス加工で形成してコストの低減を図っているが、これに限らず、アルミニウム製の部材で構成してもよい。

【0012】次に図2を参照して、本実施例の把手部分15について詳述すると、この把手部分15は、上記一对のグリップ芯体14と、グリップ芯体14の間に押入されるグリップ16とを有している。上記グリップ16は、天然ゴムまたは合成ゴムからなる弾性体により形成されており、略長尺にわたって上記グリップ芯体14間に扶持される扶持部17と、扶持部17の上部及び下部から外方、特に把手部分15の厚さ方向へ膨らんでいる膨らみ部18とを一体に備えている(図3参照)。このグリップ16をグリップ芯体14に堅固に固定するために、図2に示すように、グリップ芯体14の一方の後端部に固定される離ねじ部材19と他方のグリップ芯体14側から上記離ねじ部材19に螺合する離ねじ部材20とが設けられており、被扶持部17の後端部には、組み立て時に上記離ねじ部材20を貯通させるための貫通孔21が穿設されている。本実施例においては、上記離ねじ部材19をスクワットビン形状に形成していると共に、その視元部に矩形部22を形成して、この矩形部22をグリップ芯体14の一方に穿設された角孔23に嵌入させている。なおグリップ16を具体化するに当たり、図4に示すように、掛け止め用の孔16aを後端部に穿設してもよい。

【0013】次に図5を参照して、のこ身保持部13にのこ身11を着脱自在に固定するために、のこ身視元部12の幅方向両端部には、それぞれ第1、第2の保止溝a、bが形成されていると共に、上記のこ身保持部13には、保止部材25が設けられている。この保止部材25は、支輪26によって矢印X2方向に回動自在に支持されているトグルハンドル27、及びトグルハンドル27により駆動される保止環28を主要部とするものであ

り、のこ身保持部13に固定されたリベット状の固定支点部29と接続してのこ身視元部12を保持するためのものである。上記トグルハンドル27の保止環28は、支輪26の前方に形成された、前後に長く延びる長孔30内を貫通していると共に、支輪26の後方へ延びて、トグルハンドル27の劇部に回動自在に嵌入している。従ってトグルハンドル27を、支輪26を中心に回動させることにより、保止環28は、長孔30内を前後に滑動することができる。なお図5において、13aは、トグルハンドル16を嵌めている状態のときに保止環28の後端部を遮断するための切欠である。

【0014】上記のこ身視元部12の第1の保止溝aは、上記保止環28の、長孔30内を貫通している部位に形成するためのものであり、上記長孔30に沿って延びる水平部a1と、水平部の後端部の凹部a2を備えている。また第2の保止溝bは、上記固定支点部29に貫通するためのものであり、図5の実線で示すように、第2の保止溝bに固定支点部29を保止させた状態でのこ身11の背をのこ身保持部13の背側内面に接するように、のこ身視元部12の後端斜面が支輪26に当接した状態で第2の保止溝bが長孔30に對向するよう寸法関係が設定されている。

【0015】これにより本実施例においては、図2、図5の二点鎖線で示すように、予めトグルハンドル27を立てて保止環28を長孔30の前方部へ移動させ、その状態で第2の保止溝bに固定支点部29を保止させた後、矢印X2で示すように反時計回りにのこ身視元部12を回動させてのこ身11の背をのこ身保持部13の背側内面に当接させ、最後にトグルハンドル27を実線で示す位置に固定することにより、視元部12を支輪26、保止環28、及び固定支点部29により堅固に保止することができる。またトグルハンドル27を上記と逆の手順で操作することにより、簡便にのこ身視元部12をのこ身保持部13から外すことができる。

【0016】以上説明したように本実施例によれば、のこ身保持部13と一对のグリップ芯体14とを一体的に形成することにより一つの工程でのこ身保持部13とグリップ芯体14とを一度に加工することができる、比較的簡単に精度の高い商品を製造することができる。従って本実施例によれば、歩留りが向上し、製造コストを低くすることができる。しかものこ身保持部13と一对のグリップ芯体14とを一体的に形成することにより、のこ身11をグリップに対して堅固に保持することができる。従って本実施例によれば、組み引き作業を行ないやすくすることができますという利点もある。

【0017】また、弾性体のグリップ16を一对のグリップ芯体14間に押入する構成を採用しているので、グリップ16の固定強度を高めることができるという利点がある。特に、本実施例においては、弾性体のグリップ16が、グリップ芯体14の少なくとも上部及び下部か

BEST AVAILABLE COPY

ら外方、特に把手部分15の厚さ方向へ膨らんでいる脛らみ部18を一体形成しているので、作業者がグリップ16を握った際に脛らみ部18の接触面積が広くなるため、滑り止め作用を充分に発揮することができるという利点がある。

【0018】さらに上記実施例においては、のこ身保持部13が、のこ身11の保証部12を保持したときに、のこ身保元部12を保持する保証部材25を有しているので、のこ身保持部13の保持強度を一層向上させることができ、製品の性能を一層向上させることができるという利点がある。次に図6~図8に示す実施例について説明する。

【0019】この実施例では、図1~図5で説明した実施例における保証部材25を差し、専らののこ身保持部13とそれに固定された固定支点部29のみによってのこ身保元部12を着脱自在に保持する構成を採用している。より詳細に説明すると、のこ身保元部12には、のこ身11の背と連続して溝曲する湾曲端部12aを設けていると共に、下面部には、湾曲端部12aの円弧中心と脇心の内面を有する保証部材25bを形成している。保証部材25bの深さは、図6の実施例で示すように、のこ身11の背のこののこ身保持部13の背側内面13bに沿わせて当接できる寸法に設定されている。そして、のこ身保持部13は、上記保証部材25bに保持する固定支点部29を設けていると共に、図7に示すように、先端開口部13c、その開口部側面が張り出る部13cを設けている。なお脇心部13cとしては、図8に示すように、のこ身保持部13の先端開口部から前に延びて先端部が接合する一対の延長片を採用してもよい。

【0020】以上の構成によれば、図6の二点鎖線で示す状態からののこ身保元部12の保証部材25bに固定支点部29を掛け合わせ、さらに溝曲端部12aとののこ身保持部13の背側内面13bに沿わせてのこ身11を上方向に回転させることにより、脇心部13cとのこ身11との間に発生する摩擦抵抗によってのこ身11が下方へ落ちるのを阻止された状態で、のこ身11がのこ身保持部13に保持される。

【0021】なお図6~図8に示す実施例の残余の部分は、図1~図5の実施例と同じなので、同一部分には同一の符号を付して、説明を省略する。次に図9以下に示す実施例について説明する。この実施例では、各グリップ部14の長手方向に一定の間隔を保てて複数個の嵌入孔40を設けていると共に、グリップ16の被保持部17に、組み立て時に嵌入孔40に嵌入されて先端部が外方へ飛び出す突起部41を一体形成している。図9のグリップ16を各グリップ部14間に挿入するには、図10の二点鎖線で示すように、先ず、グリップ部14間を矢印X1方向に拡張し、その間にグリップ16を配置した後、実線の姿勢に戻すだけである。

【0022】以上の構成によれば、図11に示すよう

に、各突起部41をそれぞれ対応する嵌入孔40から飛び出させることにより、突起部41の先端面を作業者の手に接触させることができるので、その分、弾性体18構成されたグリップ16の手との接触面積が広くなり、より一層滑り止め作用を発揮する把手部分15を構成することができる。

【0023】なお突起部41の形状としては、図9~図11に示す略円柱形のもの他、図12に示すように先端部が突起部41の径方向へ膨らんでいる脣らみ部42を有するものを採用してもよい。また図9以下の実施例の残余の部分も、図1~図5の実施例と同じなので、同一部分には同一の符号を付して、説明を省略する。

【0024】上述した実施例は、何れも本発明の好ましい具体例を示したものに過ぎず、本発明の要旨を変更しない範囲内で、種々の変形や設計変更を施すことができるることは云うまでもない。

【0025】

【発明の効果】以上説明したように本発明の替刃式鋸用ハンドルによれば、のこ身保持部と一对のグリップ部とを一体的に形成することにより一つの工程でののこ身保持部とグリップ部とを一度に加工することができる。比較的簡単に精度の高い製品を製造することができる。従って本発明によれば、歩留りが向上し、製造コストを低くすることができる。しかものこ身保持部と一对のグリップ部とを一体的に形成することにより、のこ身をグリップ部に対して堅固に保持することができる。従って本発明によれば、堅引き作業を行なやすぐすることができるという利点もある。

【0026】また、弾性体のグリップを一对のグリップ部間に挿入する構成を採用しているので、グリップの固定強度を高めることができるという利点がある。特に、弾性体のグリップが、グリップ部の少なくとも上部及び下部から外方へ膨らんでいる脣らみ部を有している場合には、作業者がグリップを握った際に最も荷重のかかる部分を弾性体で構成することができる、滑り止め作用を充分に発揮することができるという利点がある。

【0027】さらに上記ののこ身保持部が、のこ身の根元部を保持したときに、のこ身保元部を保持する保証部材を有している場合には、のこ身保持部の保持強度を一層向上させることができ、製品の性能を一層向上させることができるという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例におけるハンドルを採用した替刃式鋸の正面図である。

【図2】上記ハンドルの部を示す分解斜視図である。

【図3】図1のII-II矢印断面図である。

【図4】上記ハンドルのグリップの変形例を示す正面図である。

【図5】上記ハンドルの保証部材の要部を示す一部欠載

BEST AVAILABLE COPY

正面図である。

【図6】本発明の別の実施例におけるのこ身保持部の要部を示す一例欠載正面略図である

〔図2〕図6の「こ食保障部」の倒相圖である。

【図8】本発明のさらに別の実施例におけるのこ身保持部の斜切頭である

【図9】本発明のさらに実施例におけるハンドルを採用した普通自転車の正面図である。

【図10】図9の実施例におけるハンドルの要部を示す分解図図版

万能的上帝的恩典。

[図1.1] 図9のU=11年視断面図である

【図12】本発明のさらに別の実施例におけるハンドルの構造図である。

の横断面図である 「管員の胸図」

「内閣の取り」

10 ハントル 11 ハントル

11 のこ身

12 のこ身根九郎

13 のこ身保持部

14 クリップ

【四】

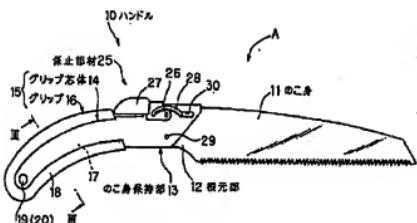
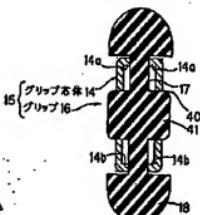
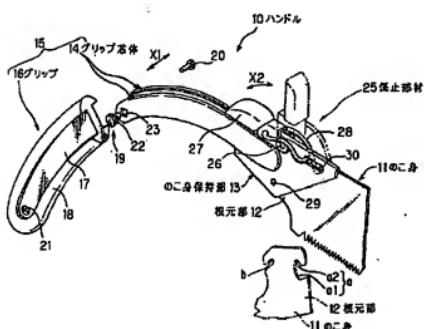


图1-11



[图2]



【図3】

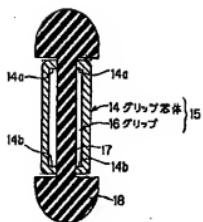
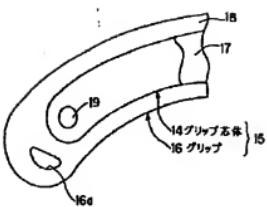
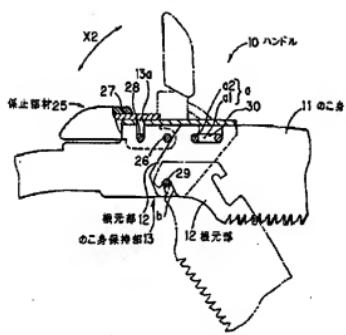


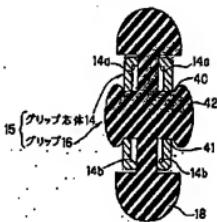
图41



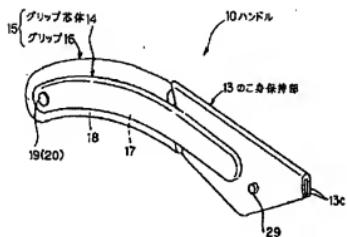
(图5)



【图12】

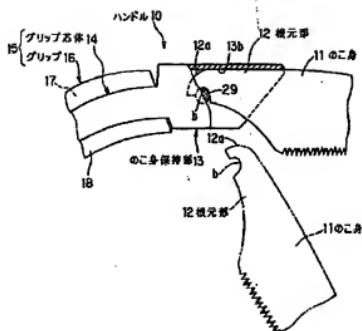


〔圖7〕

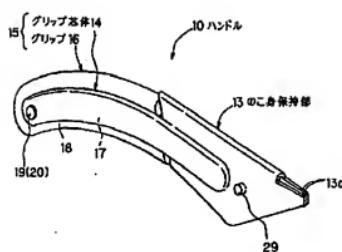


BEST AVAILABLE COPY

【図6】

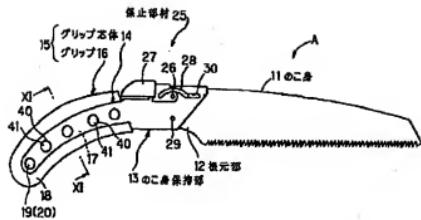


【図8】

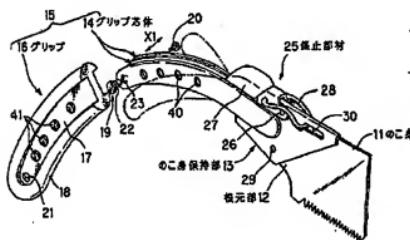


BEST AVAILABLE COPY

【図9】



【図10】



BEST AVAILABLE COPY